

防災教育教材としての「防災かるた」のメッセージ性に関する研究

Study on Message of “Disaster Prevention Karuta” for the Education Material

○金山理菜¹, 押田佳子²

*Rina Kanayama¹, Keiko Oshida²

Abstract: In this study, we investigated that on the disaster prevention Karuta of text cards. As a result, it was grasped that message for disaster preparedness and recommended actions.

1. 背景及び目的—近年, 2011(平成 23)年の東日本大震災や2019(令和元)年の台風15号および19号をはじめとした, 大規模災害が相次いで発生している. このような状況下において, 事前の備えの重要性が改めて問われており, 地域においてはこれを防災教育として幼少期から学ばせる動きが見られる. そのひとつに子どもたちが防災に関する知識・行動・意識を身に付けるための「防災かるた」が各地で制作されている^[1].

本研究では, 防災かるたの読み札の記載内容に着目し, そのメッセージ性を読み解くことを目的とする.

2. 調査方法—調査方法を Table1 に示す.

3. 結果および考察—調査結果より, 得られた対象一覧を Table2 に示す. また, 読み札を文脈から読み取り「時間軸」「対象災害」「教育としてのメッセージ性」と捉え分析したものをそれぞれ Table3~5 に示す. 以降, これに従い結果及び考察を述べる.

3-1. 制作状況—Table2 より, 防災かるたは, 15地域で20種類制作され, 945枚の読み札が得られた. このうち, 岩手県が4種類と最多であり, 次いで長野県が2種類, これ以外の地域は1種類ずつであった. 制作年より, 東日本大震災以前が7種類, 震災以降が11種類, 不明が3種類であった. これより, 防災かるたを用いた防災教育は東日本大震災以前から実施されてきたが, 震災以降に新たに普及させる動きがあったことを捉えた. 制作主体に着目すると, 公共団体が12種類, 民間が5種類, 教育機関が4種類であった.

3-2. 時間軸—Table3 より, 全945枚中, 時間軸が記されたものは942枚見られ, このうち「平常時」に関するものが483枚(51%)と最多であり, 次いで「災害

発生時」が287枚(30%)であった.

特徴的な地域を見ると, I(宮城県:防災かるた)については避難所の過ごし方, P(愛知県:伊勢湾台風カルタ)については過去の被災体験に関する内容が示されており, どちらも「被災後」が80%以上を占めていた.

以上より, 時間軸では, 多くの地域で平常時からの備えを重要視していることを捉えた.

3-3. 対象災害—Table4 より, 全945枚中, 対象災害が記されたものは890枚見られ, このうち, 「自然災害全般」に関するものが273枚(29%)と最多であり, 次いで「備え」が190枚(20%)であった. 個別の災害については, 「台風/洪水」が180枚(19%)と最多であり, これはわが国でほぼ毎年発生していることより, 身近な災害として捉えられているためと考えられる.

特徴的な地域を見ると, 伊勢湾台風の被災経験を記しているPは, 44枚(100%)と全てが「台風/洪水」を対象としており, 河川氾濫の被災経験を記したN(長野県:災害伝承カルタ)においても24枚(55%)と多くを占めていた. またE(岩手県:地震防災かるた)では「地震」が14枚(30%), F(宮城県:津波対策いろはかるた(旧))では「津波」が24枚(50%), G(宮城県:津波対策いろは

Table2 List of Karuta(対象一覧) (This is original table by authors)

記号	かるた名	地域	制作年	制作主体
A	防災かるた ^[2]	全国	不明	こくみん共済
B	土砂災害防災かるた ^[3]	全国	2016(平成28)	土砂災害防止広報センター
C	Let's 防災! いろはかるた ^[4]	全国	2017(平成29)	防災専門図書館
D	水防災かるた ^[5]	北海道	2009(平成21)	国土交通省北海道開発局
E	地震防災かるた ^[6]	岩手	2013(平成25)	岩手大学地域防災研究センター
F	津波対策いろはかるた(旧) ^[7]	岩手	1957(昭和32)	盛岡地方気象台・宮古測候所
G	津波対策いろはかるた(新) ^[7]	岩手	2006(平成18)	産業技術総合研究所
H	伝えよう先人達の努力と勇気水書かるた ^[8]	岩手	2008(平成20)	国土交通省一関防災センター北上学習交流館
I	防災かるた ^[9]	宮城	不明	宮城県総合教育センター
J	水防災かるた ^[10]	山形	2017(平成29)	山形河川国道事務所
K	習志野防災かるた ^[11]	千葉	2012(平成24)	「習志野民話の会」習志野防災かるた制作実行委員会
L	フロンターレ防災かるた ^[12]	神奈川	2017(平成29)	川崎市幸区役所
M	NBS 防災カルタ ^[13]	長野	2006(平成18)	NBS 長野放送
N	災害伝承カルタ ^[14]	長野	2009(平成21)	天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会事務所
O	清水町防災かるた ^[15]	静岡	2011(平成23)	清水町役場
P	伊勢湾台風カルタ ^[16]	愛知	2020(令和2)	名古屋市港防災センター
Q	男女共生防災かるた ^[17]	大阪	2014(平成26)	摂津市立男女共同参画局
R	ひょうご「学ぼう災」かるた ^[18]	兵庫	2019(令和元)	兵庫県庁阪神北農政局
S	防火かるた ^[19]	広島	1994(平成6)	府中町役場
T	あそぼうさいカルタ ^[20]	高知	不明	高知県庁
U	改訂版おいた減災かるた ^[21]	大分	不明	大分大学減災・復興デザイン教育研究センター
計		20種類(※重複あり)	15地域	21種類

Table1 Outline of the survey(調査概要) (This is original table by authors)

文献調査	対象	インターネット検索(Google)を用いて「防災かるた」を検索し, 2020(令和2)年8月17日までにweb公開している防災かるた(21種類)
	内容	読み札の内容について分析した. 読み札を「時間軸」「対象災害」「教育としてのメッセージ性」に分類し, その内訳を以下の通りとした. 「時間軸」: 平常時, 災害発生時, 被災後 「対象災害」: 自然災害全般, 台風/洪水, 雷, 地震, 津波, 火災, 備え, 事故防止 「教育としてのメッセージ性」: 知識, 意識づけ, 注意喚起, 言い伝え, 災害への備え, 推奨行動
アンケート調査	調査日	2020(令和2)年9月4日~9月25日
	対象内容	防災かるたを制作した企業および自治体(21種類) 制作主体名および制作年他

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

かるた(新)では「津波」が16枚(33%)と多くを占めており、東日本大震災以前より「地震」および「津波」が重要視されていることを捉えた。また、南海トラフ地震が警戒される高知県におけるT(高知県:あそぼうさいカルタ)では「地震」が18枚(39%)と多く見られた。

以上より、対象災害については、その地域で過去に起こった災害や、今後起こると想定される災害の読み札が多く見られることを捉えた。

3-4. 教育としてのメッセージ性—Table5より、全945枚中、教育としてのメッセージ性が記されたものは932枚見られ、このうち、「推奨行動」に関するものが282枚(30%)と最多であり、次いで「災害への備え」が210枚(22%)であった。これらは、災害発生時や被災後といった非日常にすべきふるまいや、平常時から災害を想定して行う事前準備など、子どもたち自身の動きを促すものが多く見られた。また、「言い伝え」を見ると、全体で68枚(7%)と最少であるが、過去の大災害を伝承することを目的とするNおよびPではそれぞれ22枚(50%)、13枚(30%)と他に比べ多い傾向にあった。

以上より、被災体験が少ない子どもたちには「推奨

行動」のようなふるまいを、かるたを通じて身に付けることができるといえよう。

4. まとめ—防災かるたの読み札において、各地域に応じた災害の「推奨行動」や「備え」についての重要性が込められており、子どもが親しみやすいかるたというツールを用いることで、自然に身に付けられるよう工夫されていることを捉えた。一方で、「言い伝え」のような被災体験の伝承事例は一部に留まり、地域記憶の希薄化が懸念される。短い言葉で繰り返し使用するかるたであるからこそ、今だけでなく、過去、ひいては将来につながる事柄を扱うことで、防災かるたのメッセージ性が強まるのではないかと考える。

5. 参考文献

[1]防災教育チャレンジプランHP,2020.10.15[2]こくみん共済HP,2020.8.17[3]土砂災害防止広報センターHP,2020.8.17[4]防災専門図書館,2020.8.17[5]北海道開発局HP,2020.8.17[6]岩手大学地域防災研究センターHP,2020.8.17[7]山下文男ほか1名,『津波いろは歌留多』について,歴史地震第22号,2007[8]一関防災センター北上学習交流館HP,2020.8.17[9]宮城県総合教育センターHP,2020.8.17[10]山形河川国道事務所HP,2020.8.17[11]習志野民話の会HP,2020.8.17[12]幸区HP,2020.8.17[13]NBSHP,2020.8.17[14]天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会事務所,2020.8.17[15]清水町HP,2020.8.17[16]名古屋市港防災センターHP,2020.8.17[17]摂津市男女共同参画局HP,2020.8.17[18]阪神北県民局HP,2020.8.17[19]府中町HP,2020.8.17[20]高知県危機管理部HP,2020.8.17[21]大分大学減災・復興デザイン教育研究センターHP,2020.8.17

Table3 Analysis table of time line(時間軸における分析表)

記号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	計
平常時 (%)	21 (47.7)	26 (59.1)	25 (55.6)	30 (65.2)	23 (50.0)	28 (58.3)	28 (58.3)	28 (63.6)	0 (0.0)	26 (56.5)	27 (60.0)	24 (54.5)	19 (43.2)	25 (56.8)	24 (52.2)	1 (2.3)	20 (45.5)	24 (54.5)	37 (82.2)	25 (54.3)	22 (50.0)	483 (51.1)
災害発生時 (%)	17 (38.6)	17 (38.6)	15 (33.3)	12 (26.1)	17 (37.0)	17 (35.4)	18 (37.5)	12 (27.3)	0 (0.0)	14 (30.4)	10 (22.2)	16 (36.4)	24 (54.5)	7 (15.9)	21 (45.7)	5 (11.4)	6 (13.6)	15 (34.1)	8 (17.8)	18 (39.1)	18 (40.9)	287 (30.4)
被災後 (%)	6 (13.6)	1 (2.3)	5 (11.1)	4 (8.7)	6 (13.0)	3 (6.3)	2 (4.2)	4 (9.1)	4 (100.0)	6 (13.0)	8 (17.8)	4 (9.1)	1 (2.3)	12 (27.3)	1 (2.2)	38 (86.4)	18 (40.9)	5 (11.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (9.1)	172 (18.2)
小計	44	44	45	46	46	48	48	44	44	46	45	44	44	44	46	44	44	44	45	43	44	942
総数	44	44	45	46	46	48	48	44	44	46	45	44	44	44	46	44	44	44	45	46	44	945

(This is original table by authors)

【凡例】%=各対象数/総数 実数単位を枚とする

Table4 Analysis table of disaster(対象災害における分析表)

記号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	計
自然災害全般 (%)	3 (6.8)	0 (0.0)	17 (37.8)	8 (17.4)	11 (23.9)	14 (29.2)	16 (33.3)	15 (34.1)	44 (100.0)	18 (39.1)	16 (35.6)	18 (40.9)	15 (34.1)	11 (25.0)	15 (32.6)	0 (0.0)	17 (38.6)	14 (31.8)	3 (6.7)	5 (10.9)	13 (29.5)	273 (28.9)
台風/洪水 (%)	2 (4.5)	33 (75.0)	3 (6.7)	20 (43.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (43.2)	0 (0.0)	17 (37.0)	1 (2.2)	4 (9.1)	0 (0.0)	24 (54.5)	2 (4.3)	44 (100.0)	0 (0.0)	3 (6.8)	1 (2.2)	1 (2.2)	6 (13.6)	180 (19.0)
雷 (%)	1 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (6.8)	5 (0.5)
地震 (%)	8 (18.2)	0 (0.0)	7 (15.6)	0 (0.0)	14 (30.4)	1 (2.1)	4 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (15.6)	2 (4.5)	5 (11.4)	8 (18.2)	0 (0.0)	8 (17.4)	0 (0.0)	3 (6.8)	3 (6.8)	2 (4.3)	18 (39.1)	93 (9.8)
津波 (%)	5 (11.4)	0 (0.0)	1 (2.2)	0 (0.0)	2 (4.3)	24 (50.0)	16 (33.3)	1 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.4)	1 (2.3)	1 (2.3)	0 (0.0)	1 (2.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.3)	2 (4.3)	7 (15.2)	3 (6.8)	66 (7.0)
火災 (%)	3 (6.8)	0 (0.0)	4 (8.9)	2 (4.2)	1 (2.2)	2 (4.2)	1 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.4)	2 (4.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.3)	0 (0.0)	2 (4.3)	0 (0.0)	33 (73.3)	1 (2.2)	5 (11.4)	57 (6.0)
備え (%)	9 (20.5)	11 (25.0)	11 (24.4)	7 (15.2)	15 (32.6)	10 (20.8)	5 (10.4)	10 (20.8)	5 (11.4)	0 (0.0)	10 (21.7)	13 (28.9)	12 (27.3)	9 (20.5)	1 (2.3)	14 (30.4)	0 (0.0)	15 (34.1)	19 (43.2)	6 (13.3)	12 (26.1)	190 (20.1)
事故防止 (%)	1 (2.3)	0 (0.0)	2 (4.4)	3 (6.5)	3 (6.5)	2 (4.2)	1 (2.1)	1 (2.3)	0 (0.0)	1 (2.2)	0 (0.0)	2 (4.5)	2 (4.5)	0 (0.0)	2 (4.3)	0 (0.0)	2 (4.3)	1 (4.5)	2 (4.5)	0 (0.0)	1 (2.2)	26 (2.8)
小計	32	44	45	39	46	48	48	41	44	46	41	44	35	36	44	44	37	42	45	45	44	890
総数	44	44	45	46	46	48	48	44	44	46	45	44	44	44	46	44	44	44	45	46	44	945

(This is original table by authors)

【凡例】%=各対象数/総数 実数単位を枚とする

Table5 Analysis table of message for the education material(教育としてのメッセージ性における読み札分析表)

記号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	計
知識 (%)	3 (6.8)	9 (20.5)	9 (20.0)	17 (37.0)	4 (8.7)	7 (14.6)	7 (14.6)	5 (11.4)	7 (15.9)	6 (13.0)	6 (13.3)	6 (13.6)	6 (13.6)	11 (25.0)	5 (10.9)	10 (22.7)	0 (0.0)	9 (20.5)	17 (37.8)	10 (21.7)	8 (18.2)	162 (17.1)
意識づけ (%)	4 (9.1)	5 (11.4)	3 (6.7)	2 (4.3)	0 (0.0)	14 (29.2)	12 (25.0)	6 (13.6)	3 (6.8)	13 (28.3)	7 (15.6)	2 (4.5)	8 (18.2)	3 (6.8)	5 (10.9)	3 (6.8)	4 (9.1)	5 (11.4)	9 (20.0)	3 (6.5)	5 (11.4)	116 (12.3)
注意喚起 (%)	18 (40.9)	6 (13.6)	9 (20.0)	13 (28.3)	5 (10.9)	3 (6.3)	2 (4.2)	2 (4.5)	0 (0.0)	1 (2.2)	2 (4.4)	6 (13.6)	3 (6.8)	0 (0.0)	4 (8.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.3)	8 (17.8)	4 (8.7)	7 (15.9)	94 (9.9)
言い伝え (%)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.2)	2 (4.3)	2 (4.3)	1 (2.1)	1 (2.1)	6 (13.6)	0 (0.0)	5 (10.9)	4 (8.8)	0 (0.0)	2 (4.4)	1 (2.3)	22 (50.0)	0 (0.0)	13 (29.5)	2 (4.5)	4 (9.1)	1 (2.2)	2 (4.3)	68 (7.2)
災害への備え (%)	11 (25.0)	11 (25.0)	11 (24.4)	7 (15.2)	17 (37.0)	10 (20.8)	12 (25.0)	12 (27.3)	0 (0.0)	8 (17.4)	13 (28.9)	11 (25.0)	13 (29.5)	3 (6.8)	15 (32.6)	0 (0.0)	16 (36.4)	14 (31.8)	5 (11.1)	13 (28.3)	8 (18.2)	210 (22.2)
推奨行動 (%)	8 (18.2)	13 (29.5)	12 (26.7)	4 (8.7)	18 (39.1)	13 (27.1)	14 (29.2)	13 (29.5)	34 (77.3)	13 (28.3)	13 (28.3)	12 (26.7)	18 (40.9)	13 (29.5)	5 (11.4)	17 (37.0)	13 (29.5)	22 (50.0)	11 (25.0)	5 (11.1)	11 (23.9)	282 (29.8)
小計	44	44	45	46	46	48	48	44	44	46	42	43	44	44	46	39	44	44	45	43	44	932
総数	44	44	45	46	46	48	48	44	44	46	45	44	44	44	46	44	44	44	45	46	44	945

(This is original table by authors)

【凡例】%=各対象数/総数 実数単位を枚とする